

21世紀は農業の時代

インテックグループが農業部門に参入していることに違和感を抱く方は多いかもしれない。だが元々当社は、ビル管理の一環として造園の仕事に関わりを持ってきた経緯があり、個人住宅向けの庭木剪定などに業務を拡大して植栽サービスを行ってきた。これらの経験から自然環境と人間の営みを考えるなかで、農業の役割を再認識し、インテックグループとして農業を通じて、社会に貢献できる分野を模索するようになった。

21世紀は農業の時代になると考えられる。現在、わが国の食糧自給

知恵を注ぐ



率は40%を切っており、海外から輸入される安い農産物が国内農家に打撃を与えているという問題を抱えている。その一方で、「食の安全・安心」を脅かす事件も相次いでいる。食糧の安全保障を図る観点からも、有事の場合に食糧を確保できるのかといった危機意識がようやく国民に浸透しはじめた。

無農薬、有機栽培にこだわる
当社が最初に手掛けたのはネギの無農薬栽培である。平成11年から富山県上新川郡大沢野町(現富山市)の実験農場でスタートさせたのに続き、翌12年からは富山県婦負郡八尾町(現富山市)でネギ、キャベツ、タラノメ、桃を栽培し、販売してきた。いずれも無農薬で栽培し、環境問題と「食の安全・安心」を重視した生産にこだわりを持ってきた。



インテックアメニティは昭和50年に創業し、インテックグループの一員として、総合ビル管理業をはじめ、不動産賃貸業、貨物運送業、保険事業など幅広い事業領域をカバーしている。なかでも、平成11年ごろから取り組んでいる農業部門は、「食の安全・安心」への国民の関心が高まるなか、食糧自給率向上が急務とされるわが国の課題に対して、将来において当社が重要な役割を担っていくためのさまざまな可能性に挑戦している。

を、再度生ゴミを回収したレストランや企業の社員食堂へ納入するなど「食のリサイクル化」にも挑戦してきた。現在、米の有機栽培を検討中だ。

「カタレ敵なし」で知名度アップ

「食の安全・安心」を重視した当社のこのような農業部門は、これまで県民に広く知られてきたとは言えない。しかし、今年に入ってから「カタレ敵なし」という名の付いた呉羽梨が、当社の名を強力にアピールすることとなった。当社が運営に協力しているプロサッカークラブ「カタレ富山」を県民とともに応援するため、富山市呉羽地区で栽培している「幸水」を、「カタレ敵なし(梨)」と名付けて、今年8月中旬からスタジアムなどで販売したところ、大きな話題を呼んだ。「幸水」の美味しさと命名の面白さからファンの間で大評判となり、今シーズンは約5千個も販売することができた。売り上げの一部は、「カタレ富山」に寄付することになっている。サッカー関係者の強い要望があり、来年も販売することになった。

今後は高齢化や、後継者不足などで生産者のいなくなった梨畑を借りて、自社での栽培面積を逐次拡大していく計画だ。「カタレ敵なし」で

「食の安全・安心」にグループの



社農業部門が県民に認知されるようになったのを契機に、これからもさまざまな農産物の生産、販売を通じて農業に対する当社の理念が県民の間に浸透していけばよいと考えている。

環境にやさしい農業目指して

当社は環境にやさしい農業を一層推進するため、富山県の「エコファーマー制度」に登録し、化学肥料や農薬を使わないコマの有機栽培を続けている。エコファーマーで組織する「やまエコファーマー倶楽部」では、呉羽地区において、堆肥を使って栽培する農法のほかにも、いろいろと新しい農法を開発している。例としては昆虫の雌雄が交尾のための交信に利用しているフェロモンを使う。人工的に合成した高濃度のフェロモンを散布することで交信がかく乱し、交尾に至らず繁殖率が下がる。薬剤散布に代わるクリーンな害虫防除法として注目されている。また、その他にも剪定した枝を燃やさずに畑に返すといった循環型農業の実践などがある。当社もこうした先駆的な農法を積極的に取り入れている。

無限に広がるビジネスチャンス

以前は企業が農地を取得して農



株式会社インテックアメニティ
植栽課課長 堀井 伸也氏

インテックアメニティの植栽課では、造園業と農業に取り組んでいます。今年はいくつかの方に「カタレ敵なし」を買っていただき本当にありがとうございました。安全・安心をキーワードに、これからも頑張ります。

業を始めるためには、農業生産法人の要件を満たす必要があったが、平成15年からの構造改革特区制度で、農業生産法人以外の法人に対しても、農地の貸し付けが可能になった。さらに、この特区制度は平成17年に全国に拡大され、市町村が定められた区域に限って企業の農業参入を可能にするなど、規制緩和が進んでいる。当社はこれを追い風に、企業としての新しい農業展開の道を探っているところだ。

企業活動である以上、採算性の確保はもちろんだが、インテックグループに蓄積されている経営ノウハウと資源を生かし、グローバルな視点による戦略的な農産物の選定、作物の多様な労働管理を行うことが、継続的に安定した利益を確保できる仕組みを確立できる。工夫次第でビジネスチャンスは無限に広がっている。